

「主の十字架の苦しみと恵み」

ルカ23：39－47（受難週）

堀田修一 22・4・10

I 「彼らはイエスを十字架につけた」：33。本来は、私達が自分の罪の為、十字架につくべきだった。主の御手と御足には釘が打ちつけられた。肉が裂け、血が流れた。いかばかりの苦しきだったことだろうか。主は、私達を心から愛して、私達の身代わりに苦しみを味わわれた。心から主に感謝します。

「そのときイエスはこう言われた。『父よ、彼らをお赦してください。彼らは、自分が何をしているかが分かっていないのです』」：34。主が祈られた「彼ら」の中には、私たちも含まれていました。主は、十字架で人間の復讐の連鎖を断ち切られました。私たちがイエス様の立場なら、こう祈ることが出来るでしょうか？私なら無理です。自分を傷つける人、ひどいことをした人を赦すことは、人間には不可能です。主は、ご自分が、私たちが受けるべき分の罪の刑罰を受け、赦しを完成してくださいました。私たちが主を信じるとき、私たちのすべての罪が赦されると共に、他の人を赦す愛が与えられます。私は、主を信じて48年、人を赦すことは簡単なことではない事を学びました。主は、色々なつらい人間関係を通して自分の力、愛では人を赦すことは出来ない事を教えられます。しかし、主に祈り求める時、人を赦す奇跡を経験して来ました。「私を強くしてくださる方によって、私はどんなこと（難しい人を赦すこと）でもできるのです」（ピリピ4：13）。「互いに親切にし、優しい心で赦し合いなさい。神も、キリストにおいてあなたがたを赦してくださいましたのです」（エペソ4：32）。神の赦しを受けて人を赦す。

II 「民衆は立って眺めていた。議員たちもあざ笑って言った。『あれは他人を救った。もし神のキリスト（メシヤ、救い主）で、選ばれた者なら、自分を救ったらよい。』」：35。「同じように、祭司長たちも律法学者、長老たちといっしょになって、イエスをあざけて言った」（マタイ27：41）。イエスは、実際に神の子、神ご自身であられた。ご自分を救うことが、おできになった。しかし、そこで、ご自分を救われていたら、人間の、そして私達の救いはなかった。十字架から降りる事は、お出来になった。しかし、もし、十字架から降りられたら、人々の、私達の救いは、成就しなかった。主は、最も謙遜なお方で、ご自分の神としてお力を、ののしる人々に見せつける事をなさらず、人々を、私達を心から愛して、苦しい、苦しい十字架に、とどまられた。主は、私達の罪の為に死んで下さったお方。と同時に、私達が、ある人々に、ののしられ、あざけられる時、人々から誤解され理解されない時、信頼していた人々に裏切られた時、その心のつらさを、体に激しい痛みがある時、その痛みを深く理解して下さるお方となられた。心から、感謝します。

III 犯罪人の一人は言った。「イエス様。あなたが御国に入られるときには、私を思い出してください。」イエスは言われた。「まことに、あなたに言います。あなたは今日、わたしとともにパラダイス（天国）にいます」ルカ23：43。主を信じて亡くなる人は、その日に、天国に迎えられ、主と共におり、天で、天使たちと旧約と新約時代の神の民と共に、神を心か

ら賛美し礼拝を捧げています。黙4：10

Ⅳ「三時ごろ、イエスは大声で、『エリ、エリ、レマ、サバクタニ』と叫ばれた。これは、『わが神、わが神。どうしてわたしをお見捨てになったのですか』という意味である」マタイ27：46。この御言葉は、イエス様の最高の、極限の苦しみを表している。父と子と聖霊なる神は、永遠の初めから存在され（存在されていない時はなく）、互いに完全な愛で愛し合う一体の交わりの神。この愛の交わりが断絶したことはなかった。しかし、この十字架で叫ばれた時、御子イエスは、現実に父なる神との交わりから切り離された。御子イエスと御父の間に永遠に存在していた永遠の交わりは断絶した。すさまじい痛みだった。御父にとっても、御子にとっても、互いの幸いな交わりが断たれることは、非常な痛みだった。私たち人間は、自分の罪（神への反抗、高ぶり、不品行、汚れ、偶像礼拝、憎しみ、恨み、ねたみ、嘘、偽り、ごまかし、悪口、陰口）故に、神との交わりが断絶していた。しかし、主が、私達の身代わりに、神に見捨てられ、断絶されるというすさまじい刑罰を受けて下さったが故に、私達は、神から見捨てられることなく、神との交わりの断絶から解放され、神との和解の交わりに入れられる道が開けたのである。主の十字架は、神の愛（罪人を救う愛）と神の義（罪は罪として正しくさばかれる聖なる義、正しさ）が、クロス（Cross）、交差した聖なる所。「神は、キリストにあって、この世をご自分と和解させ、違反行為の責めを人々に負わせないで（「私たちを責め立てている債務証書を無効にされた」コロサイ2：14）和解のことは私たちに委ねられました。…キリストに代わって、願います。神と和解させていただきなさい。神は、罪を知らない方（御子イエス様）を（罪人である）私たちのために罪（神に見捨てられ刑罰を受ける者、私達の罪を負う者）とされました。それは、私たちがこの方において神の義（罪赦された正しい者）となるためです」（Ⅱコリント5：19-21）。

Ⅴ「イエスはもう一度大声で叫んで、息を引き取られた。すると、見よ。神殿の幕が上から下まで真っ二つに裂けた。そして、地が揺れ動き、岩が裂けた」マタイ27：50、51。主が十字架で死なれたゴルゴタから離れた所にあったエルサレムの神殿の幕が真っ二つに裂けた。「神殿の幕」は、聖所と至聖所を隔てていた幕。この幕を通して至聖所（聖なる神が臨在される聖なる所）に入ることが出来たのは、大祭司だけで、それも、年に一度、贖いの日だけだった。旧約聖書の大祭司は、真の大祭司（神と人の仲介者）であるイエス様を指し示していた。真の大祭司であるイエス様が、十字架で、完全な贖い（私達の数えきれない罪の負債を返済する為に、御自身の血という代価を払い、私達を永遠の滅びから買い戻して下さった）成し遂げて下さったので、神と罪人である私たち人間の隔てを象徴していた神殿の幕が裂けた、取り除かれた。人間が裂くのであれば、下から上へとなるはずだが、御言葉には、「上から下まで真っ二つに裂けた」とある。ここに深い意味がある。「上から下まで」とは、「神ご自身が、裂いて下さった」恵みを暗示している。旧約聖書の儀式が指し示していたものが、主の十字架のいけにえにより成就し、偉大な神に近づく新しい道が、すべての人に開かれたことを示している。※旧約聖書を読む事は大切である。旧約時代の儀式の多さ、神に近づき礼拝する事の大変さを知れば知るほど、現在、主の十字架の恵みを通して神を礼拝できる恵み、ありがたさが身に染みる。「キリストは聖なるものとされる人々（私達）を、一つのささげ物（御自身の十字架の死、私達の罪の為の身代わりの死）によって、永遠に全うされたのです」ヘブル10：14。「こういうわけですから、兄弟たち。私たちは、イエスの血によって、大胆にまことの聖所（神が臨在される所）に入ることができるのです。イエ

スはご自分の肉体という垂れ幕を通して、私たちのためにこの新しい生ける道（主に救われ、いつも恵みの聖所に近づき神を礼拝できる道）を設けてくださったのです」10：20。

祈り：この受難週、私達の罪の為の苦しみ、主の深い愛、大切なひとり子を私達の為に十字架につけて下さった御父の深い愛を思いつつ過ごすことができますように。特に、今週の15日の金曜日、午前9時から午後3時まで、主は、私達の罪の為、十字架につけられ、苦しまれ、尊い血を流されました。日常の生活、仕事等をしながらも、心の中で、その主を思いつつ過ごすことができますように。そして、4月17日の日曜日の朝、死に勝利して、復活された主を喜び、次週のイースター（復活祭）礼拝が祝福されますように！